

科目名	性差と人間社会 Gender & Society		担当教員 (研究室番号)	浦野 茂 (503)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	shigeru.urano@mcn.ac.jp					
履修年次	1年次後期	科目区分	教養・基礎科目		選択区分	選択	単位数 (時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等履修生	可
科目目的	性別や性差が関わる社会関係（たとえば恋愛や結婚、家族から、就職や医療、はたまた暴力や差別まで）とその問題について、理解することがこの授業の目的です。性別や性差に関わる現象はとすると「自然現象」として片付けられがちですが、この授業ではジェンダーの概念を学ぶことで、これらを社会的現象としてしたがって私たちの意識や規範、制度の課題として捉え直していきます。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 多様な考え方や様々な背景を持つ人々の特徴を理解するための、幅広い教養を身につけている。(知識・理解)										
	関連するDP	A 人々の生命と人間としての尊厳及び権利を尊重し、共感的に関わる姿勢を身につけている。(姿勢・態度)										
到達目標	ジェンダーの概念を学ぶことを通じ、この社会と自身の生活における性別や性差のあり方とその課題について理解を深めることが、この授業の到達目標です。											
成績評価方法 (基準)	授業での発表内容(50%)、授業内での小レポート(30%)、期末レポート(20%)											
再試験の有無と基準等	再試験あり。追加レポートの提出による。											
教科書	加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017年。											
参考書等												
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業は、履修者による発表とそれにもとづくディスカッションを中心に進めます。履修者には、各回の授業に先立って教科書の該当箇所を目を通してきたくうえでディスカッションに積極的に参加するよう、期待しています。											
備考												
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	イントロダクション				授業の進め方および主題について説明する				浦野	講義		
2回	ジェンダーの概念				ジェンダーの概念とその意義について理解する(テキスト第1章「ジェンダーとの遭遇」)				浦野	講義		
3回	性別という現象				性別・性差現象の多様な層を理解することを通じ、性別という現象の性質について理解する(テキスト第2章「女」「男」とは誰のことか)」				浦野	講義		
4回	ディスカッション：性別の壁を乗り越える人々				トランスジェンダーの検討と通じ、性別という現象の性質について理解する(テキスト第3章「性別という壁を乗り越える人々」)				浦野	講義		
5回	恋愛と性別				恋愛に対して性別という枠組みがどのような関係を持っているのか、理解する(テキスト第4章「ジェンダーは性と愛をもつづける」)				浦野	講義		
6回	性差と性役割				性差と性役割の概念を理解するとともに、それらにまつわる問題について理解する(テキスト第5章「男なんだから、男らしくすべき」は論理じゃない)」				浦野	講義		
7回	生物学的性差				生物学的性差についての言説の社会的機能とその問題について理解する(テキスト第6章「科学や数学は女には向いていない?」)				浦野	講義		
8回	ディスカッション：メディアにおけるジェンダー				映像視聴とディスカッションを通じ、メディアに描かれる性別のあり方とその問題について理解する(テキスト第7章「ジェンダーの彼方の国はどこにある」)				浦野	講義		
9回	恋愛と性行動				現代の恋愛と性行動をめぐる社会規範のあり方とその問題について理解する(テキスト第8章「男が少女漫画を読むのは恥ずかしい?」)				浦野	講義		
10回	性暴力とジェンダー				性暴力とは何か、またそれはどのように誤解されてきたか、理解する(テキスト第9章「被害者」の視点と「加害者」の視点)」				浦野	講義		
11回	ディスカッション：性暴力の諸問題				性暴力の多様なあり方とその問題、またそれらをめぐる社会規範の変化について理解する(テキスト第10章「わいせつ」と「レイプ」は同じ罪なのか)」				浦野	講義		
12回	雇用とジェンダー				現代日本の雇用慣行のあり方を検討しながら、性役割の持つ問題について理解する(テキスト第11章「女性差別は終わった」という残念な妄想)」				浦野	講義		
13回	性別役割分業とワーク・ライフ・バランス、少子化問題				現代日本における性別役割分業のあり方を理解するとともに、それがいかなる問題をもたらせているか理解する(テキスト第12章「ワーク・ライフ・バランスを阻むものは何か」)				浦野	講義		
14回	出産と生殖医療				出産と生殖医療についてどのような社会的問題があるのか、ジェンダーの概念を通じて理解する(テキスト第13章「女は子どもを産んで一人前?」)				浦野	講義		
15回	まとめ				自身のこれまでの生活やこれからの課題について、ジェンダー概念によって考える。				浦野	講義		

学 習 課 題

各回の授業に先立ち、教科書の指定箇所に目を通し、関連する経験や問題をまとめておくこと。
各回の授業時間において、授業内容についての小レポートを作成・提出する。

実務経験を活かした教育の取組